

綺麗なきちんとしたシルエットでありながら、ニット素材で作ることで、動きやすく楽なスタイルをハンドメイドで楽しむことができるジャケットです。印象も柔らかくなり、お仕事着はもちろん、ランチに、ジーンズなどと合わせて普段にもお使いいただけます。手が動かしやすく、ほっそりと綺麗に見せてくれるよう、袖は七分丈でのご紹介です。

寸法、用尺について

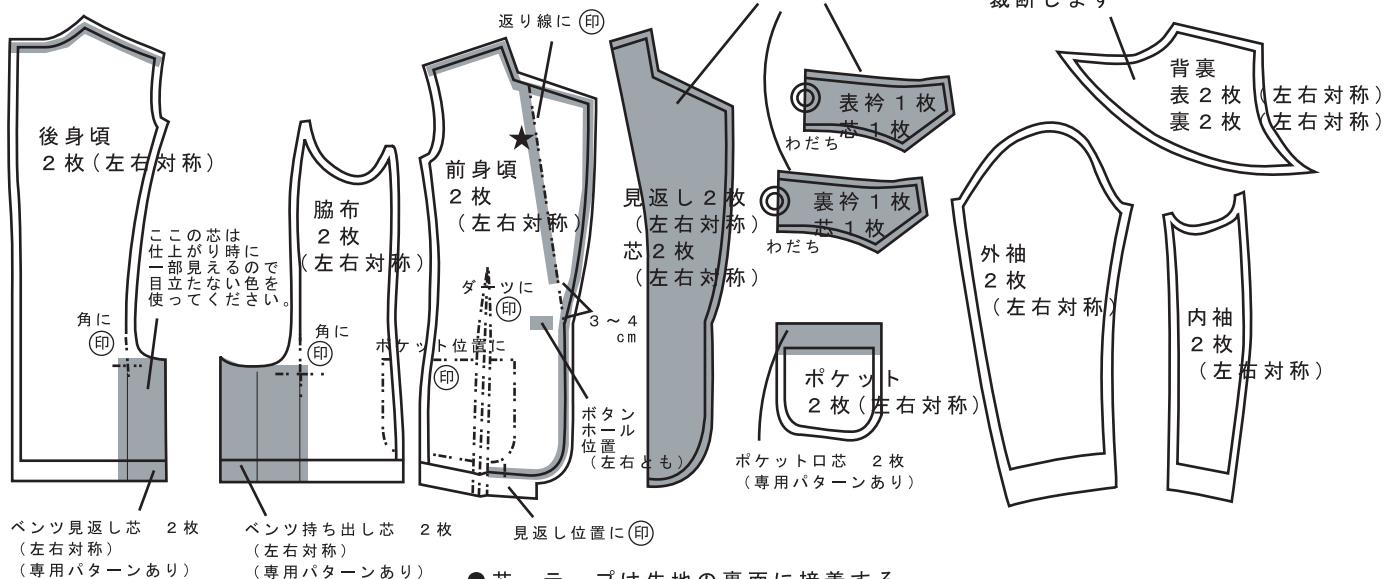
(パターン上の寸法になります)

寸法表	着丈	バスト	背肩幅	袖丈	カフス幅 (袖丈に含まれる)
M	54.3cm	87cm	36cm	42.5cm	4.5cm
L	57.9cm	95cm	38cm	44.5cm	4.5cm

材料 各サイズ共通 生地 2.0m (120~130cm幅の場合)
1.7m (140cm幅以上の場合)
裏地 0.3m
芯地 0.7m
1cm幅伸び止めテープ 2.3m
釦(2cm位) 1個
ボタンホールを手で作る場合は別途縫穴糸が必要。

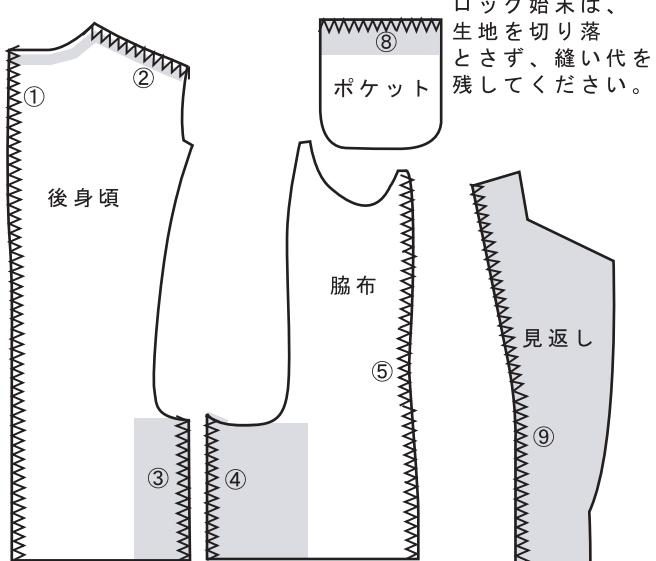
用尺は目安です。柄あわせ等により、必要な用尺は変わることございます。
また生地の用尺は「有効生地巾」で計算しています。
有効生地巾とは、ミミなどを除いた生地として使える部分の生地幅のことです。
市販の生地はミミなどを入れた巾で表示、販売されることがありますのでご注意ください。

裁断・準備



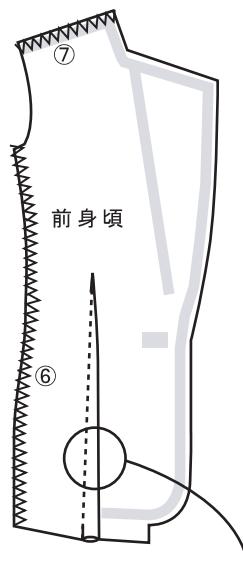
●必ず型紙を全て生地の上に配置して用尺が足りることを確認してから裁断してください

① 身頃のロック始末



生地の表側からロック始末します。

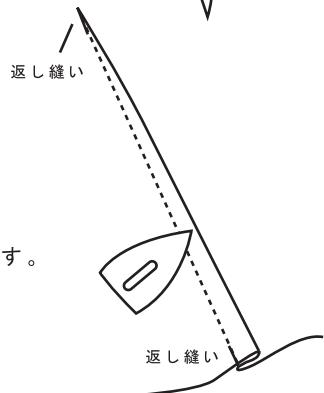
- ① 後中心
- ② 後身頃肩
- ③ ベンツ見返し奥
- ④ ベンツ持ち出し奥
- ⑤ 脇布の前身頃側
- ⑥ 前身頃脇側
- ⑦ 前身頃肩
- ⑧ ポケット上端
- ⑨ 見返し奥



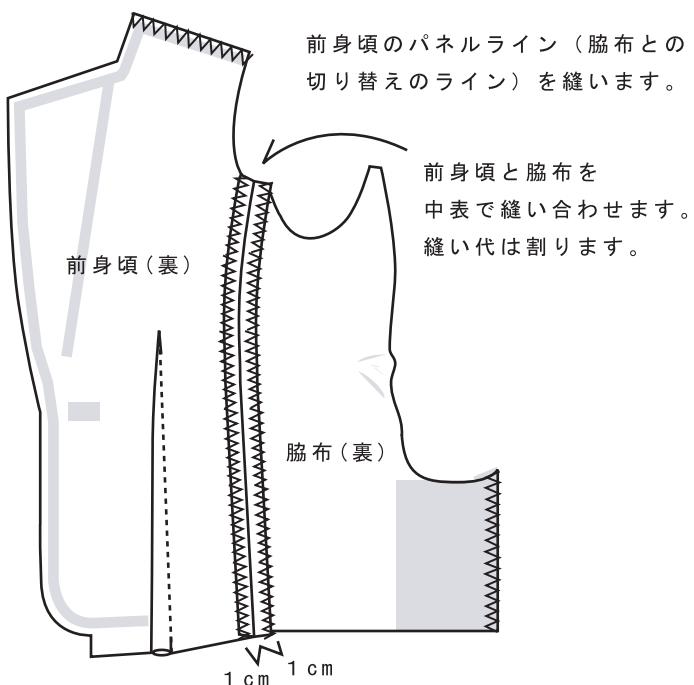
② 前身頃ダーツ縫い

前身頃のダーツを縫います。

最初と最後は返し縫いし、アイロンで前中心側へ倒します。

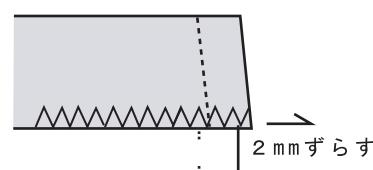
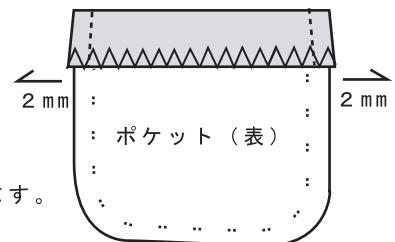


③ 前身頃パネル縫い



④ ポケット作りとポケットつけ

ポケットをポケット口で中表にし、端部分を中縫いします。この時、縫い代側の端のみを2mm外側へ引っ張ってずらします。



裏側が控えられ、表から見えなくなつて綺麗。

折り返した縫い代はまつります。

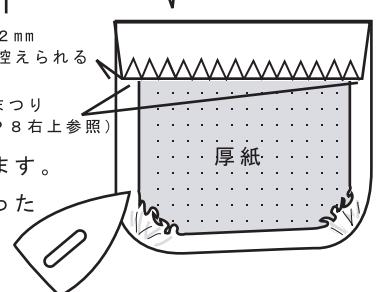
(ステッチでもOK)

アイロンで外回りを折ります。

できあがりの大きさに切った

厚紙を入れて折ると

綺麗に仕上がります。

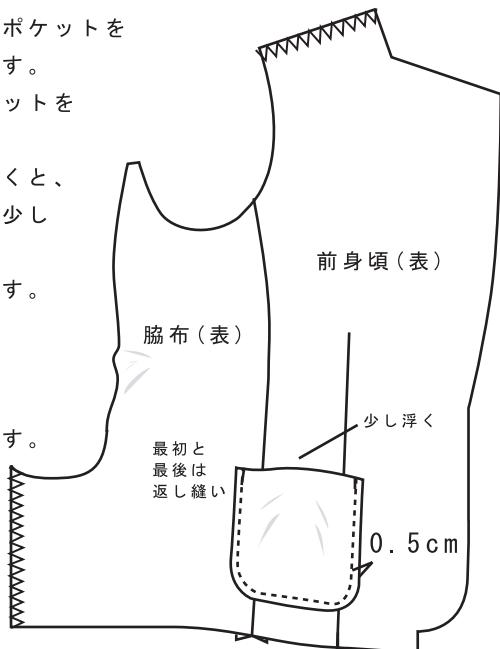


できあがったポケットを身頃につけます。

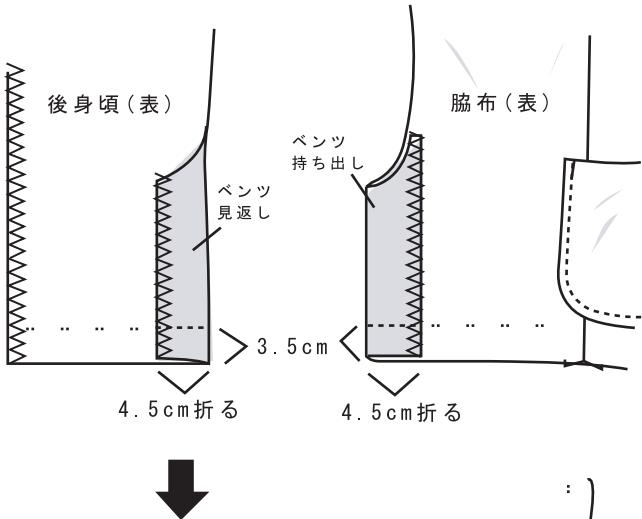
印の上にポケットを配置します。

印どおりに置くと、ポケット口が少し浮きますが、これが正解です。

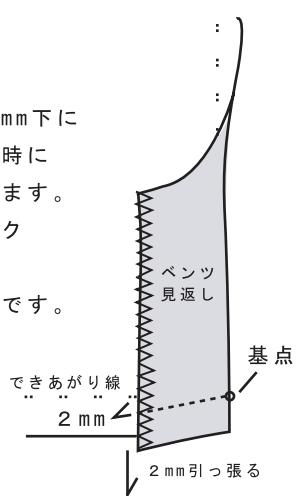
置いた時には浮きますが、着ると綺麗に身頃に沿います。



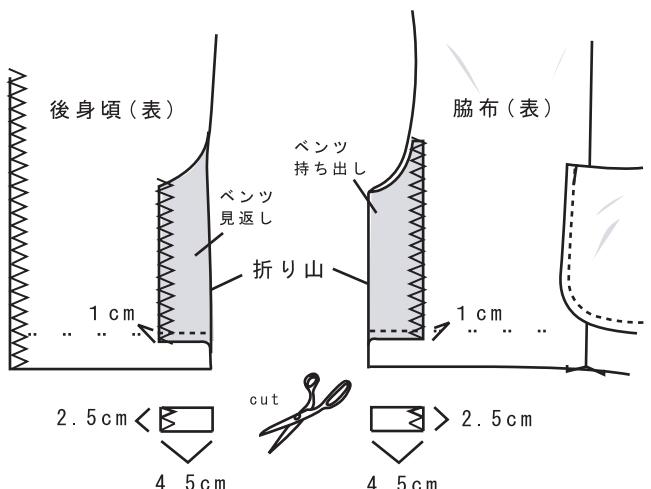
⑤ 後パネルとベンツ



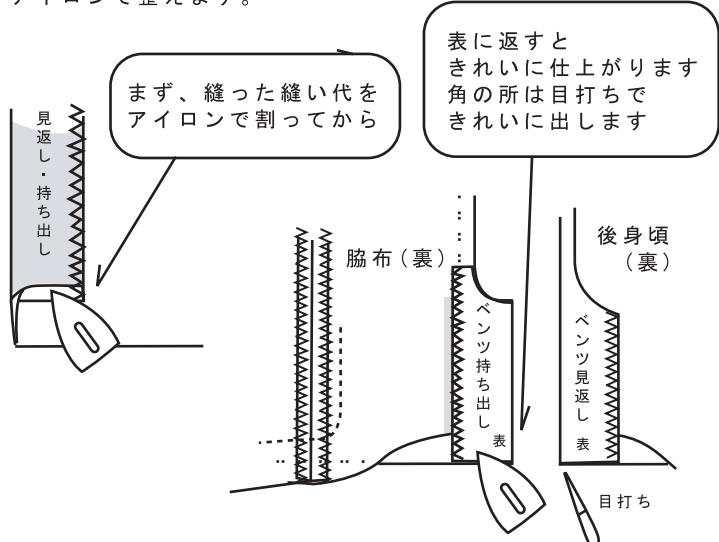
見返し（持ち出し）の奥を2mm下にずらして縫うと、表に返した時に裏が見えずに綺麗に仕上がります。ポケット口と同様のテクニックですが、難しいと判断したらずらさず普通に縫ってもOKです。

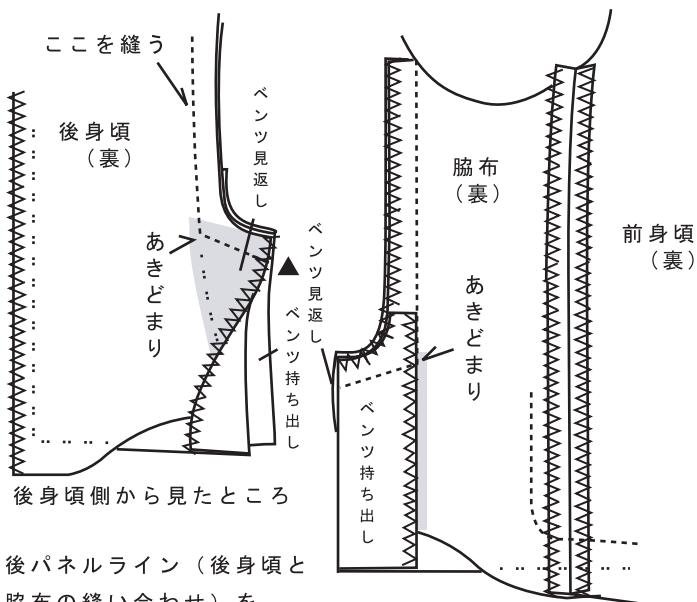


その後、厚くならないように、裾で縫い代を少しきつめにカットします。高級紳士服などでは後々お直しに使ったり、適度な重みで高級感を出せるよう縫い代をそのまま残すことがあります、ここではすっきり仕上げるために、カットします。また、上記のように裏側を控える際にやりやすくするため、パターンそのものが複雑になるのを避けるために、パターンで操作ではなく、縫ってからカット、という方法を採用しています。

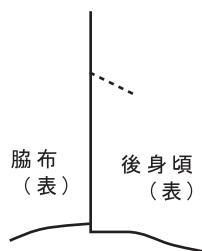


ベンツの裏側が表に見えてこないようにアイロンで整えます。

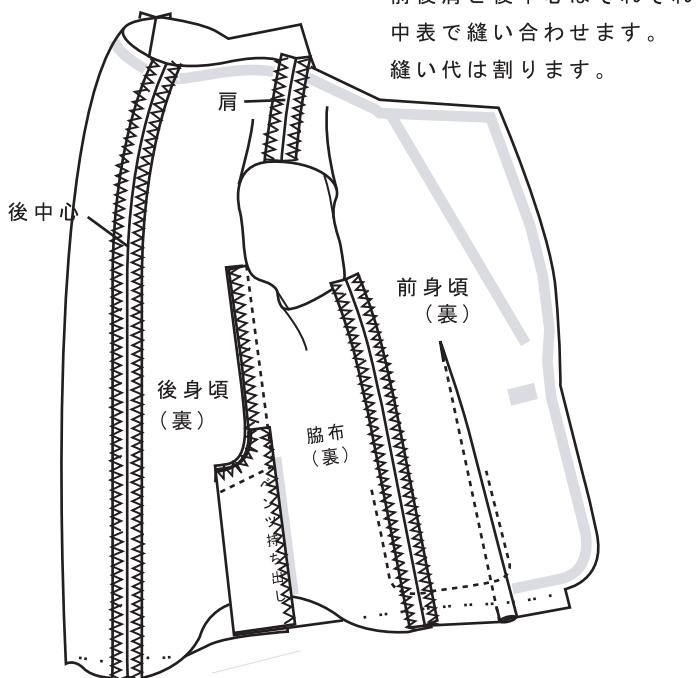




脇布側から見たところ



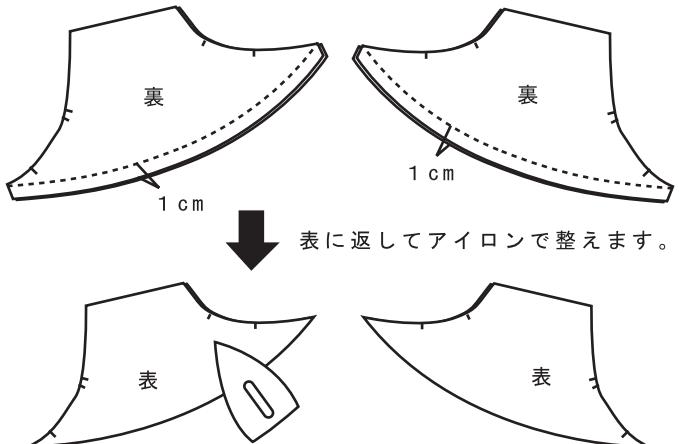
⑥ 肩と後中心を縫う



⑦ 背裏作り

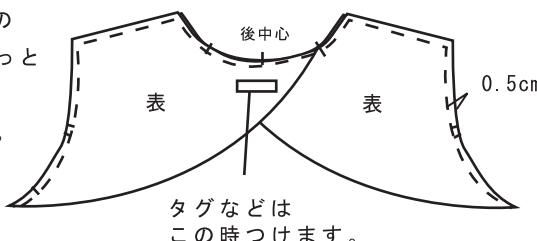
裏地は左右対称で2枚ずつ裁断します。

中表に合わせて、下部分のみ縫い合わせます。

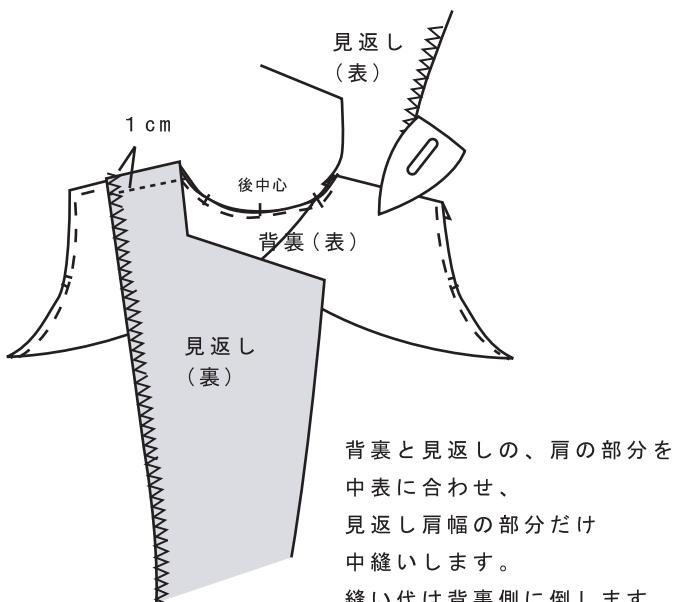


合い印を合わせて、

端から0.5cmのところをぐるっと仮止めミシンしておきます。

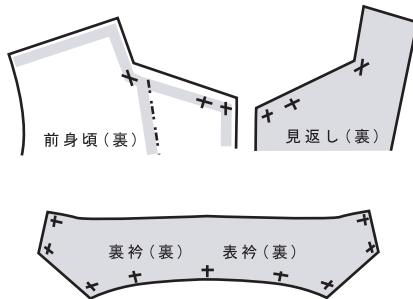


⑧ 背裏と見返しの縫い合わせ



⑨ 裏衿つけ

衿つけの前に、
衿の角の部分が
わかるように
見返し、前身頃、
衿の裏面に、
チャコで印を
入れておきます。



前身頃の衿つけ線の角に
できあがり線の2mm手前まで
切り込みを入れます。(a)

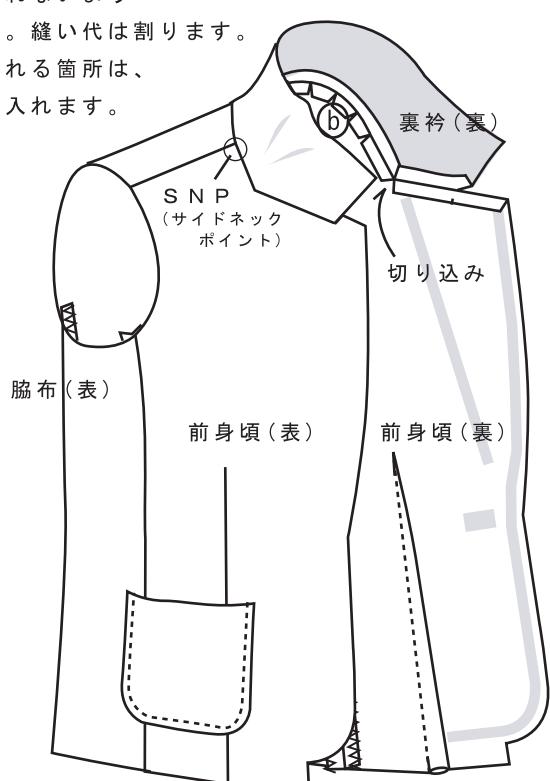
裏衿と身頃を中表に合わせ、
後中心→S N P→

切り込み位置→
衿つけ止まりの順に
印を合わせピンで止め、
縫い合わせます。

縫いはじめと縫い終わり
(衿つけ止まり～衿つけ
止まり)は返し縫いをし、
切り込みを入れた角部分は、

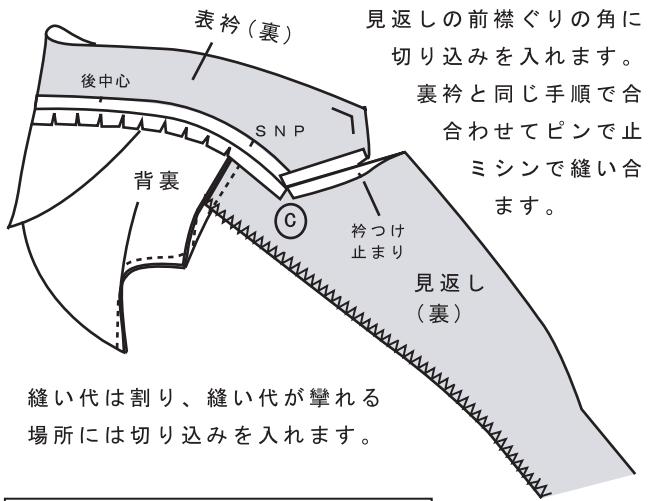
ミシンが外れないよう
注意します。縫い代は割ります。
縫い代が壊れる箇所は、
切り込みを入れます。

(b)



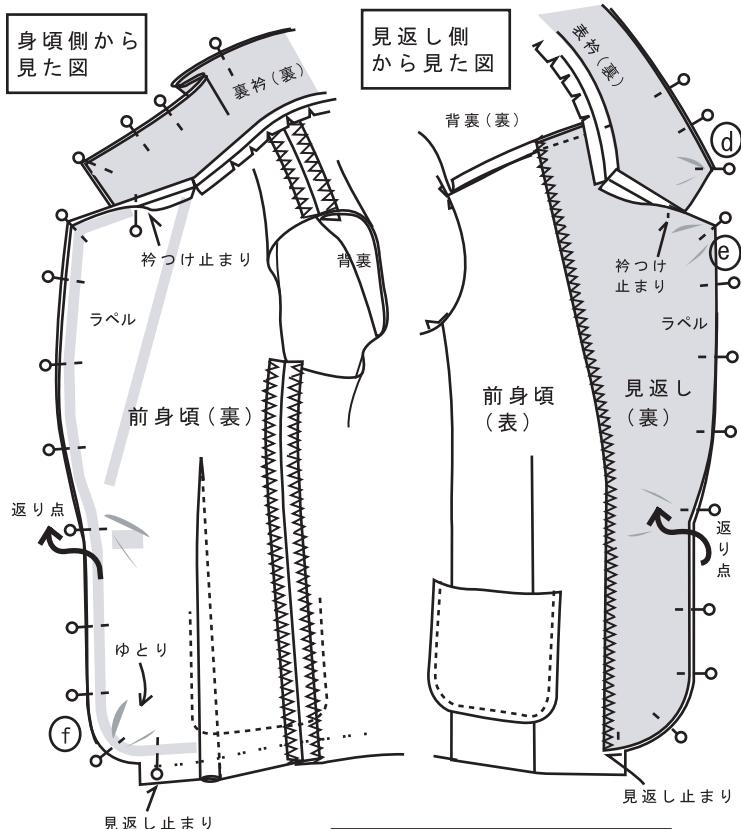
⑩ 表衿つけ

見返しの前襟ぐりの角に
切り込みを入れます。(c)
裏衿と同じ手順で合い印を
合わせてピンで止め
ミシンで縫い合わせ
ます。

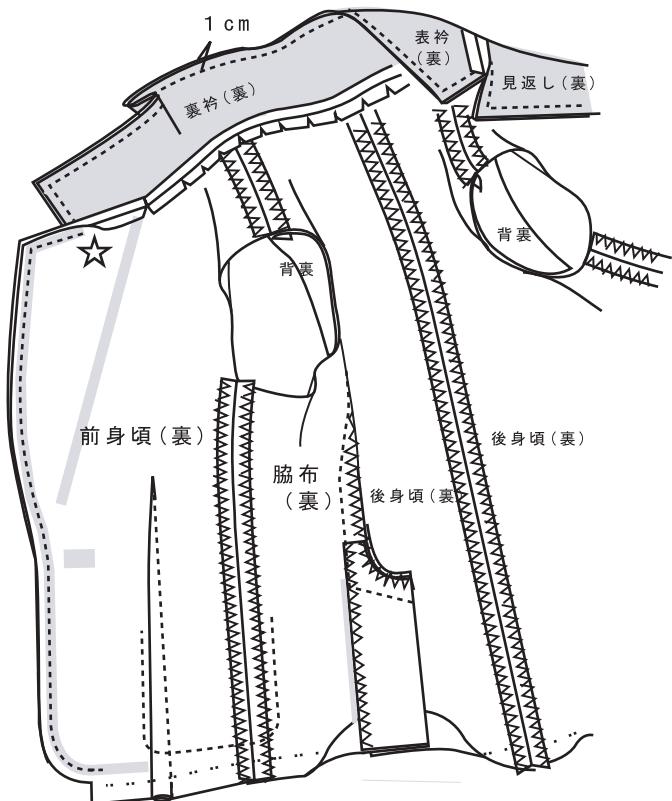


⑪ 前端～衿外回り縫い合わせ

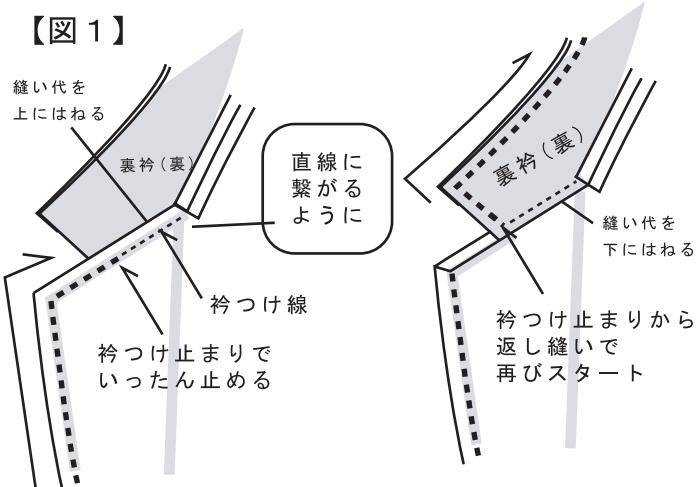
衿まわりと前端の布端を揃え、下図のように
合い印を合わせ、ピンで止めます。この時、表衿先(d)
ラベル先(e)表裾(f)のゆとりが逃げないよう注意します。
(布端をきちんと合わせれば逃げません) 不安な場合は
しつけをすると良いです。仕上がるとき端は返り点を基点に
ねじれるようになっています。(返り点より下は前身頃の方
が大きく、返り点より上は見返しの方が大きい) そこを
きちんと合わせて下さい。



前端～衿を中表で縫い合わせますが、☆部分はミシンをいったん止めて、分けて縫います。縫い方はその下の【図1】を参照します。

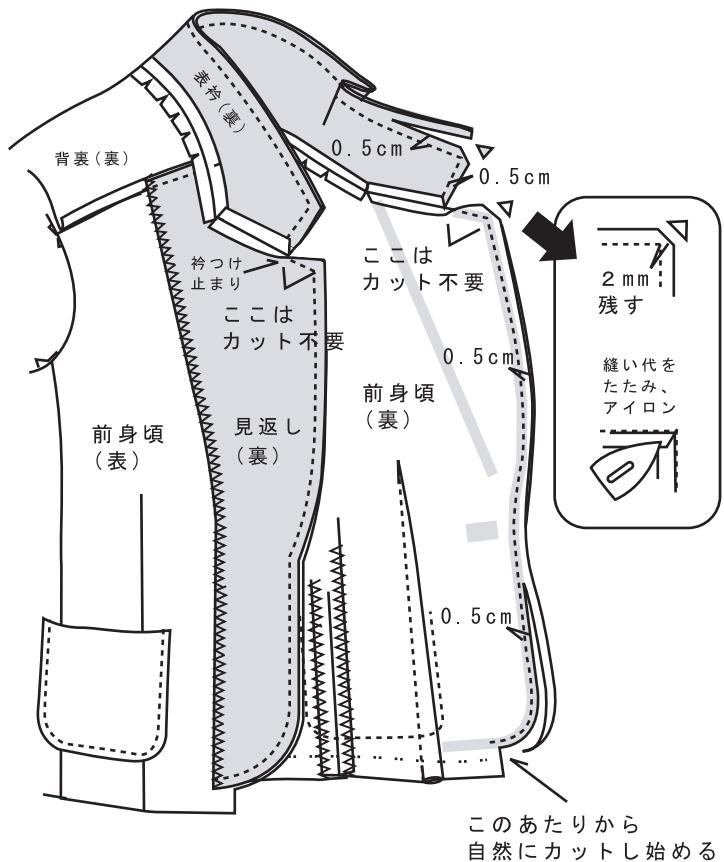


【図1】

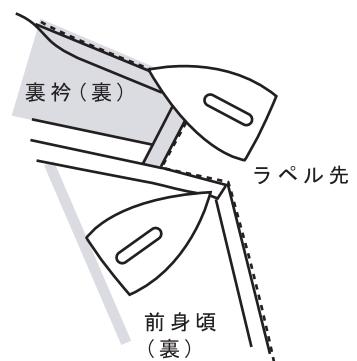


衿つけ止まり部分は、縫い代をはねて1つずつ縫います。縫い代の厚みでずれやすいですが、衿つけのミシン目と一直線に繋がるようにします。難しいところですが、ここが一番のポイントです。前端部分、衿外回りとも、身頃側（衿外回りは裏衿側）を上にして縫うと、縫いやすいです。

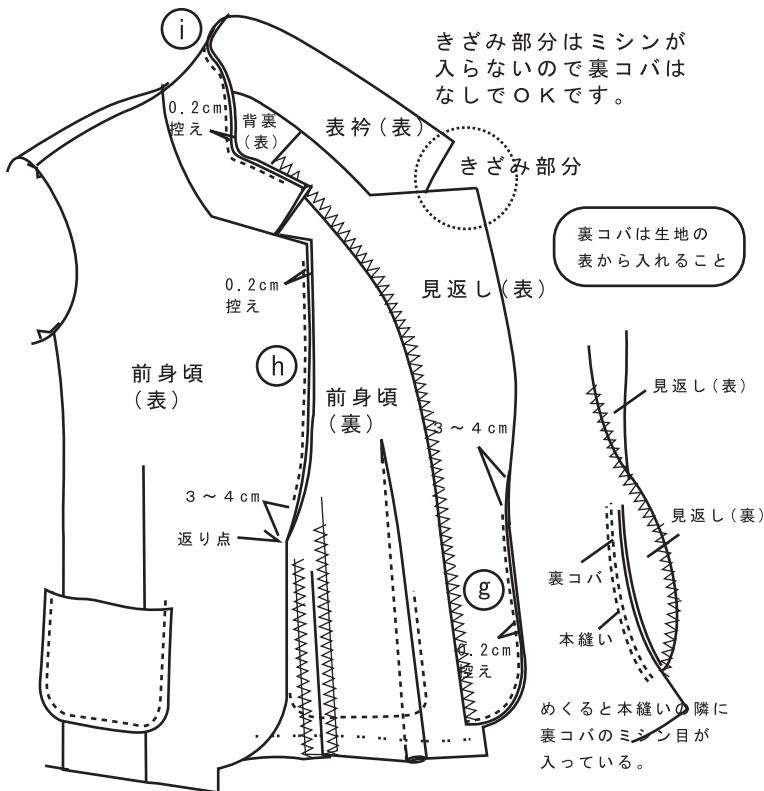
(12) 前端・衿外回りの縫い代カット



衿外回りと前端の縫い代を 0.5cm になるようにカットします。衿つけ止まりからラベル先までの、縫い代幅はカットせずに 1cm のままでOKです。衿先、ラベル先の角は 2mm 残して切り落とし、アイロンできちんと縫い代を折って押さえ、表に返した時綺麗に仕上がるようにしておきます。衿先は裏衿側、ラベル先は身頃側に縫い代を倒します。



(13) 前端・衿外回りに裏コバステッチ



縫い代をしっかり押さえたいけれど、デザイン的に表からステッチが見えてしまうのを避けるために、裏コバといって、裏側（表から見えない方）の生地と縫い代をコバステッチで止める作業をします。

(g)・返り点から下部分。

見返しの端から、返り点の3~4cm下まで。
(見返し側にステッチを入れる)

(h)・返り点から上部分。

ラベル部分になります。
返り点の3~4cm上から、ミシンが入るところまで。
(身頃側にステッチを入れる)

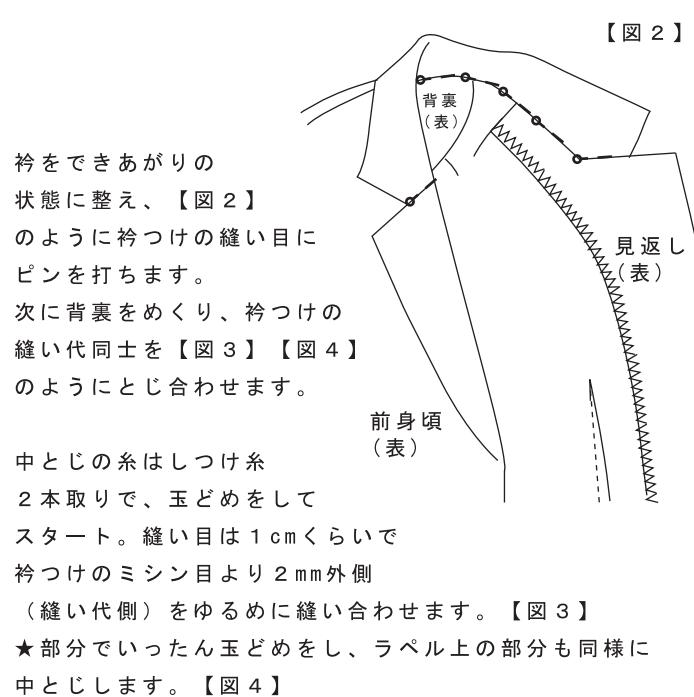
(i)・衿外回り。

衿先～衿先（ミシンが入るところまで）
(裏衿側にステッチ)

最後にアイロンで控え分を整えます。

裏コバは、縫い代を押さえる以外にも、控えアイロンがとてもやりやすくなるというメリットがあり、綺麗に仕上がります。衿ぐり、前端などに飾りステッチを入れる場合でも、裏側にステッチが2本になりますが、裏コバしてから飾りステッチを入れると綺麗です。

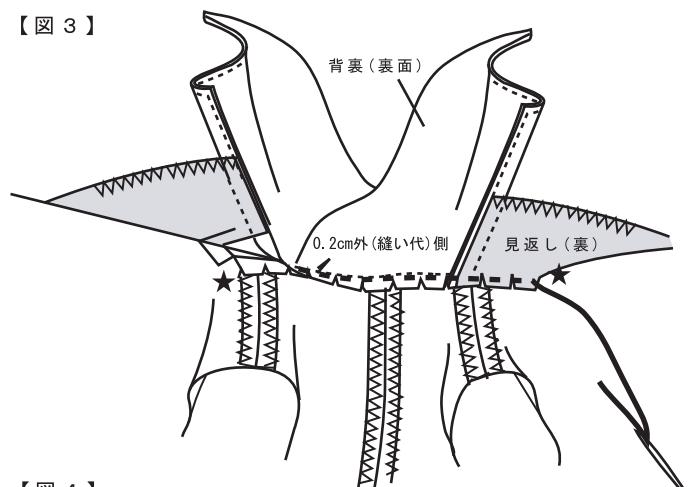
(14) 衿つけの中とじ



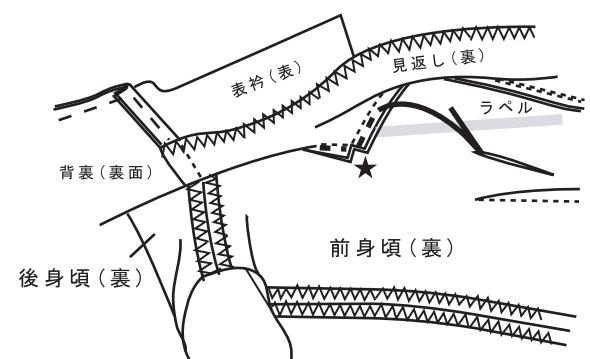
【図 2】

衿をできあがりの状態に整え、【図 2】のように衿つけの縫い目にピンを打ちます。
次に背裏をめくり、衿つけの縫い代同士を【図 3】【図 4】のようにとじ合わせます。
中とじの糸はしつけ糸
2本取りで、玉どめをしてスタート。縫い目は1cmくらいで
衿つけのミシン目より2mm外側
(縫い代側)をゆるめに縫い合わせます。【図 3】
★部分でいったん玉どめをし、ラベル上の部分も同様に中とじします。【図 4】

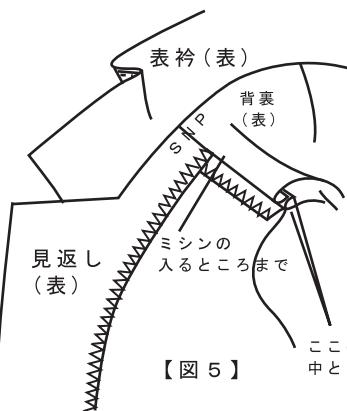
【図 3】



【図 4】

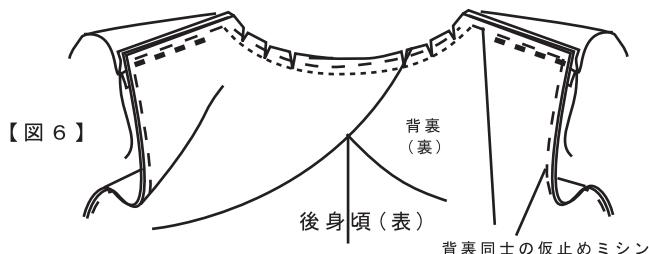


⑯ 背裏の肩と身頃の肩を中とじ

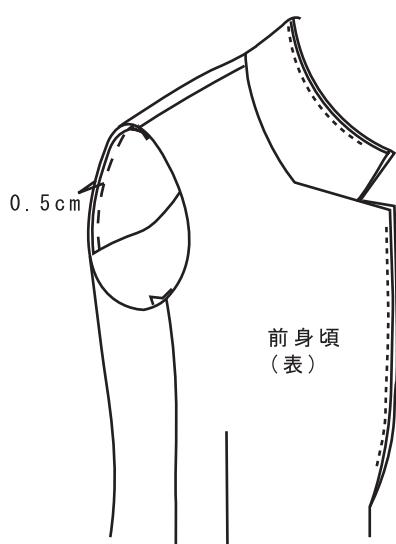


背裏を裏に返して、
後表身頃と背裏が
中表になるようにし、
肩の縫い代を合わせます。
後身頃側の肩の縫い代と
背裏の肩の縫い代の
布端を揃え、肩の縫い目
より0.2cm縫い代側を、
ミシンで中とじします。

SNPまではミシンが入らないので、
入るところまでOKです。（【図5】【図6】）

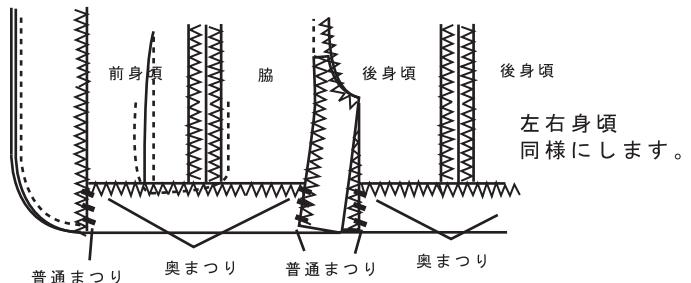


表に返し、背裏と後身頃のアームホールの合い印を合わせ
端から0.5cmのところを仮止めミシンします。
背裏同士の仮止めミシンと重なりますが、
問題ありません。

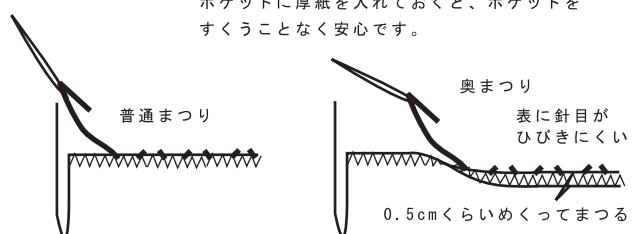


⑰ 裾始末

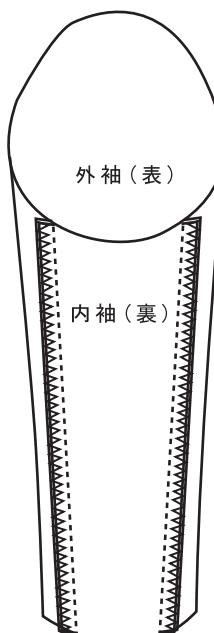
裾をロック始末して奥まつりで折り上げます。見返しと
持ち出し部分は裾縫い代部分を普通まつります。



【注意】ポケットと身頃が重なっている箇所は、身頃の生地
のみをすくい、ポケットはすくわないようになります。
ポケットに厚紙を入れておくと、ポケットを
すくうことなく安心です。

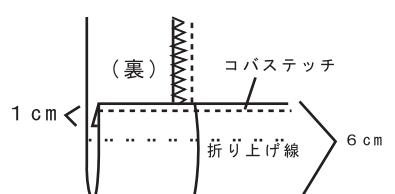


⑱ 袖つくり

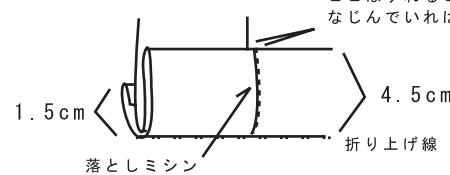


外袖と内袖を中表で縫い合わせ、
ロック始末します。
縫い代は外袖側に倒してアイロン
します。（前側・後ろ側と区別が
ありますので間違えないように
注意してください）

袖口はアイロンで折り上げ
コバステッチで始末します。

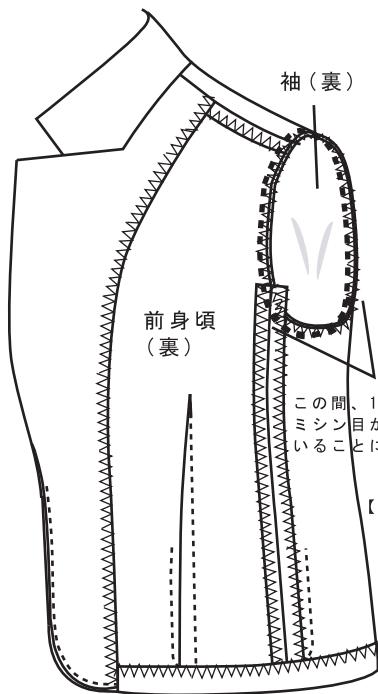


袖口を4.5cm折り上げて、接ぎ目に
落としミシンをして固定します。
片袖で2箇所あります。



二次配布・無断転載禁止

(18) 袖付け

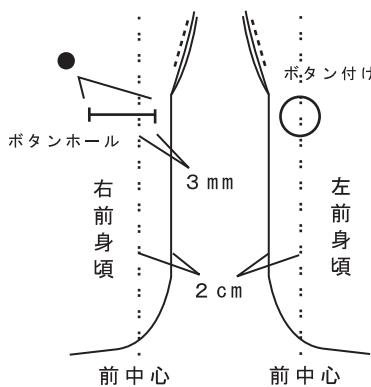


身頃と袖の合ひ印を合わせ
中表で縫い合わせます。
この時、左右の袖を
間違えてつけないように
注意してください。
袖側を上にして、袖下から
7cm上から縫い始め、
ぐるっと一周縫い越して、
袖下から7cm上で
縫い終わります。
脇は力がかかる部分
なので二度縫いします。
縫い代はロック
することになります。 始末です。

【補足】袖山部分は前後とも身頃よりも
前後0.25cmずつ長さが
長くなっていますので、いせ込んで
身頃につけるように
なっていますが、違和感なく
自然になじむので、普通に
縫い合わせてください。

(19) ボタンホール・ボタン付け

ボタンホールの長さ(●)=ボタンの直径+ボタンの厚み



ジャケットの
ボタンホールは
ハト目つき穴かぎりが
一般的です。ミシンに
よってはできない場合も
あるので、手かぎりの
方法を次にご紹介します。

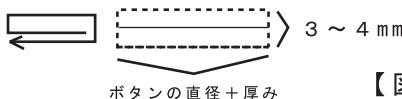
○ボタンホール準備

綿穴糸を用意します。糸の長さはボタン穴の30倍程度
必要です。穴かぎりで大事なことは、糸のツヤを最後まで
失わないようにすることなので、糸の燃りが戻らないよう
絶えず注意します。カードに巻いていた折り目も、燃りの
戻る要因になる為、糸をカットしたらアイロンをかけます。

- 1 穴ミシンをボタン穴の大きさにかけます。ほつれやすい
生地の場合は穴の内側も【図7】のように埋めます。
ミシン目は極力細かくします。

図は右上にあります。

穴ミシン…ホール箇所に長方形に
ミシンをかける

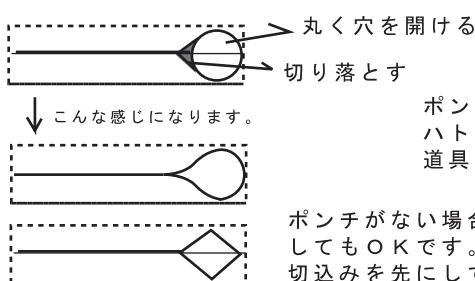


ほつれやすい
生地の場合

【図7】

(拡大)

- 2 平らに置いてハトメ穴を開け、中央に切り込みを入れます。

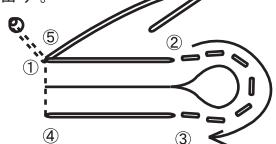


ポンチという
ハトメ穴を開ける
道具があります。

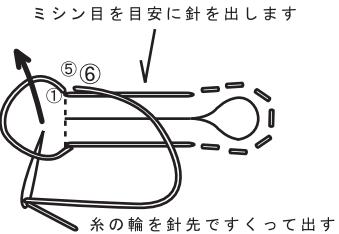
ポンチがない場合は左のように
してもOKです。ただし、
切り込みを先にしてください。

- 3 図のように糸を渡します。
ハトメの所は丸くなるよう
細かく縫います。後から
縫い伸びてくるので、
渡す糸はやや引っぱり
気味にします。

玉止めし、少し離れた
場所の表から刺し
①に出す。



- 4 針はミシン目の際に出して
きちんと揃えます。また、
かがり目の結び目が不揃いに
ならないように糸は水平に
引いた後、結び目を心もち
引き上げます。ハトメの部分は
放射状にかがり、結び玉は
起こします。(上に引っ張る)



糸の輪を針先でくっつけて出す

